

「死」と「看取り」を考える

— 超高齢・多死社会を生きる私たちに必要なこと —

第1期

■ 講座内容

「死」や「看取り」は本人、家族、友人を含め、生涯のなかで誰もがかならず直面することになる問題です。しかし、医療関係者以外の一般の人びとにとっては「その時」が来なければ、こうした問題について学んだり考えたりする機会はほとんどありません。この問題は、今後の超高齢・多死社会の進行とともに、ますます重要かつ身近なものになるでしょう。

本講座では、死を目前にした人にどのように向き合えばよいのか、愛する人や身近な人を失った悲しみをどのように乗り越えることができるのか・どのような支援ができるのかなど、死の捉え方、死に逝く人との向き合い方、死をめぐる心のケアのあり方等について、医療（医学・看護学）、人文科学（文化人類学、歴史学、心理学）、臨床宗教の各分野から、最新かつ現場での経験に基づく知識と実践を紹介します。これからの「死」と「看取り」のあり方について、参加者の皆さまと一緒に考えてみたいと思います。

※秋季講座で第2期講座開講を予定しています。

■ 講師

- 第1講：帆足 宗徹 九州臨済宗妙心寺派僧侶
 第2講：二ノ坂 保喜 医療法人にのさかクリニック院長
 第3講：松塚 俊三 福岡大学名誉教授
 第4講：清田 直人 社会医療法人栄光会栄光病院チャプレン・グリーンカウンセラー
 第5講：白川 琢磨 福岡大学人文学部教授

■ 講義内容

| | |
|---------|--|
| 開講日 | 6/10・6/24 土曜日 5回 |
| 開講時間 | 6/10: 13:00～16:30(休憩はさむ) 6/24: 10:30～16:30(昼食休憩はさむ) |
| 対象・定員 | 一般・学生 100人 |
| 会場 | 福岡大学 |
| 受講料 | 2,500円 (5講) |
| 受付・申込方法 | 先着順 5ページの申込方法参照 ※第2期講座も一緒に申し込むことができます。 |
| 共催 | 福岡大学 福岡・東アジア・地域共生研究所 |

| 講 | 月 | 日 | 曜日 | 担当 | 講義内容 |
|---|---|----|----|-----|---|
| 1 | 6 | 10 | 土 | 帆足 | 臨床宗教師 東日本大震災を契機に、死や看取りの現場で臨床の知と実践を果たすことができる宗教者として臨床宗教師が注目されています。本講では、臨床宗教師の誕生の経緯と理念を紹介したうえで、死や看取りの現場での宗教的ケアの役割とその実践のあり方についてお話しします。 |
| 2 | 6 | 10 | 土 | 二ノ坂 | 在宅ホスピス 人間誰もが必ず死を迎えます。その死に場所は約8割が病院です。しかし、本来の人間らしい最期とはどのようなものなのでしょう、人間らしい死に場所とはどこでしょうか。本講では、講師が院長を務めるクリニックでのこれまでの在宅ホスピスの取り組みを紹介するとともに、いのちの現場での経験についてお話しします。 |
| 3 | 6 | 24 | 土 | 松塚 | 歴史研究者のお遍路体験—死者を慰霊する私、死出の旅路に出る私— 春と秋の休みを利用して四国88箇所のお寺を巡り、全長1400キロを踏破しました。足掛け6年、14回にわたった私のお遍路は人間の死を考える貴重な体験でした。巡るうちに心境がどのように変化していったのか、スライドを見ながらお話しします。時間が許せば、ヨーロッパの歴史学が死をどのように考えてきたのかについてもお話しします。 |
| 4 | 6 | 24 | 土 | 清田 | 実践宗教学—チャプレンにおける臨床スピリチュアルケア— チャプレンとは病院や施設で働く宗教家のことです。本講では生きる意味を喪失している人に対し、キリスト教チャプレンがどのような援助を行っているのかスピリチュアルケアの視点からみていきます。さらに死を前にした人が抱えるスピリチュアルペイン（魂の苦悩、実存的苦悩）に対する宗教的援助について、特にキリスト教の立場からお話しします。 |
| 5 | 6 | 24 | 土 | 白川 | 民間信仰論—日本人の靈魂観・死生観を中心に— 世論調査によると、日本人の約7割が「無宗教」と答えています。一方で、寺院や神社側から報告される信者総数は日本人口の2倍を優に超えています。この落差をどう捉えればよいのでしょうか。本講は、明治維新（1868）以前の日本人の「神」や「仏」との関わりを神仏習合と捉え、「宗教」や「死」に対する忌避が、どのように生まれてきたのかを分かりやすくお話しします。 |